

一系若小相集。然了に若の安養寺に門徒一揆の寺あり
 とく。伽蘭院悉く焼拂ひ。九月三日水の庄是期山小津陣を
 移りて。遠地より當國の政事等一々命喋さる。押紙の形
 水陸道の總冠にして。大切の地あるをさく。柴田勝家に取安れ水
 國の藩鎮に補任せらる。其中執事此一郡へ武藏惣右衛門に楊り大
 野那此三分一也。原右衛門に楊り。その三分二は金森五郎八小
 楊り。これ後柴田の賜とせらる。備又府中の城小十万石の地を
 添く。前田又左衛門佐々内義助不被彦三に賜楊り。是後府中
 の三人衆とす。柴田が目録小相割らる。北の庄の要處に居城を
 結ぶ。これ小佐佐。越前此國のりふおよむ。水七町の總職
 也。柴田に命ぜられ。後家の威勢諸人小逆也。驗に柴田

殿の股肱たる。隨一の臣とぞ見えたり。其外當國の政事
 残。残る方多く命喋され。同トく九月廿三日。水の庄を津陣お
 里く。廿六日の申おころ。濃羽伎阜へ津陣城ありたる。